

# 令和7年漁期の 秋田県ハタハタ漁獲状況について

令和8年4月28日  
秋田県水産振興センター

# 1. 漁獲状況

## (1) 漁獲量①

○令和7年漁期の沿岸漁獲量は118.2kgであった。

○沖合の漁獲量は約5,798kg（2月末時点）

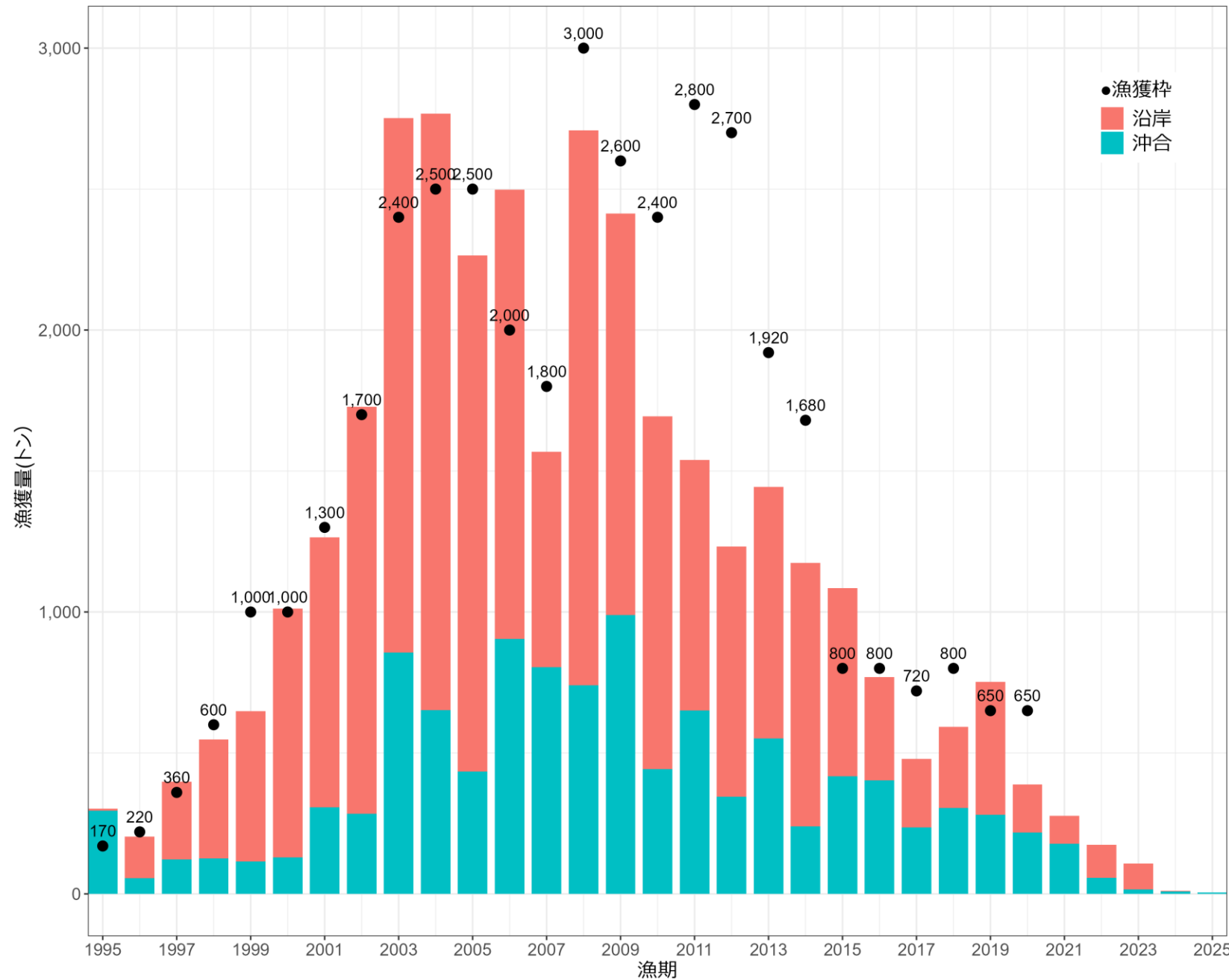
○沿岸全地区と沖合で水揚げがほとんどない状況

沿岸：前年比 5%（前年2,389.7kg）

沖合：前年比39%（前年14.9トン）

※漁期は9月1日から翌年6月末

漁期別漁獲量



※令和8年2月末時点の数値

# 1. 漁獲状況

## (1) 漁獲量②

○禁漁明けで最も少ない漁獲量

○記録の残る範囲で暦年ベースでも2025年は最低の漁獲量

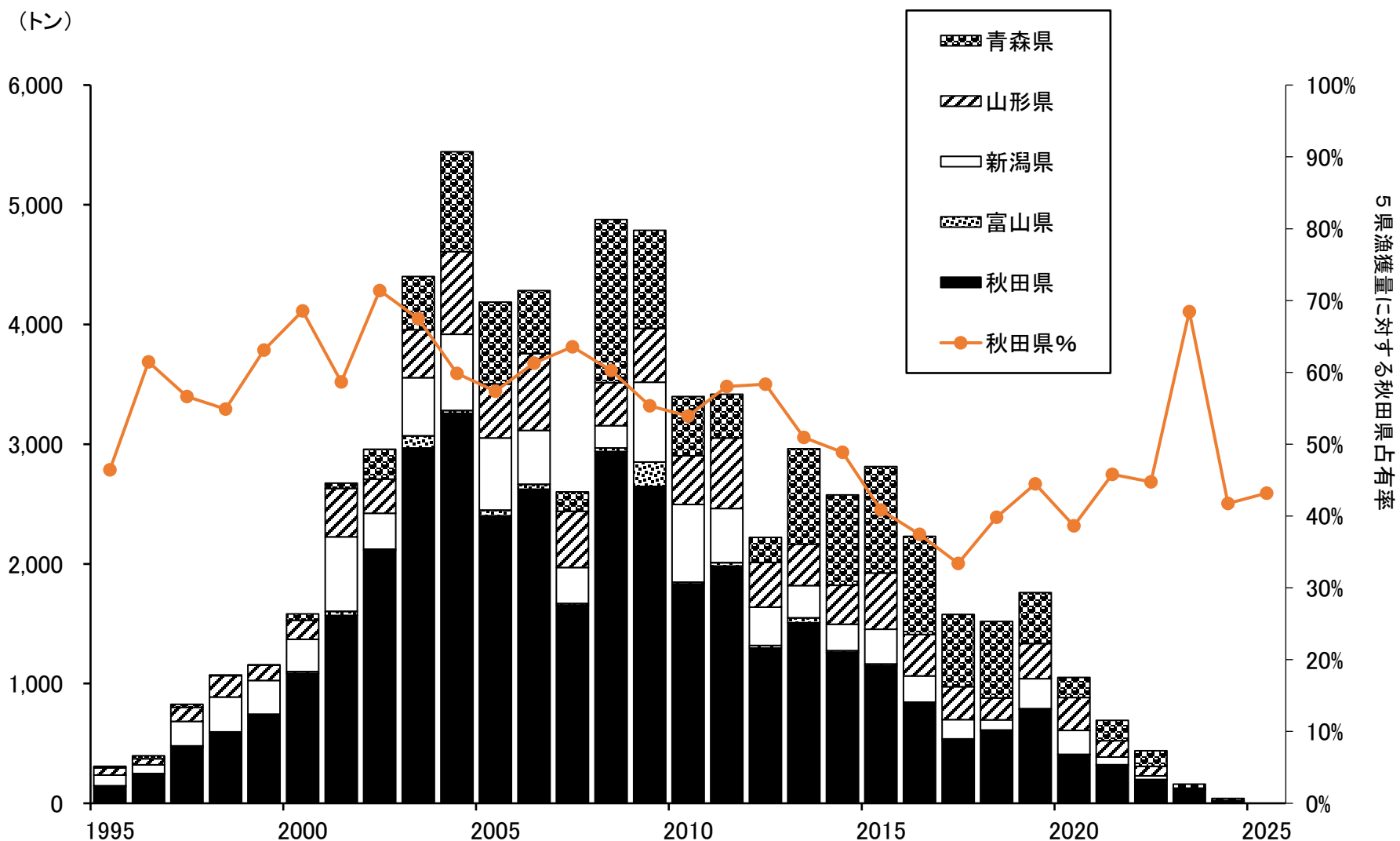
○1日の操業における水揚げ量は沖合で約30kg、沿岸で約4kg、2000年漁期から2025年漁期の平均は沖合約473kg、沿岸約641kg

漁期	管理期間	沖合(トン)			沿岸(トン)			計(トン)			
		漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	
平成	7年	85	53	62	85	90	106	170	143	84	
	8年	第1期	110	86	78	110	158	144	220	244	111
	9年		180	148	82	180	280	155	360	428	119
	10年	第2期	300	162	54	300	438	146	600	599	100
	11年		400	142	36	600	580	97	1,000	722	72
	12年		400	265	66	600	902	150	1,000	1,166	117
	13年	第3期	520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
	14年		680	384	56	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
	15年		960	906	94	1,440	2,051	142	2,400	2,957	123
	16年	第4期	1,000	707	71	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
	17年		1,000	489	49	1,500	1,867	124	2,500	2,356	94
	18年	第5期	800	943	118	1,200	1,640	137	2,000	2,584	129
	19年		720	845	117	1,080	765	71	1,800	1,610	89
	20年		1,200	866	72	1,800	2,035	113	3,000	2,901	97
21年	第6期	1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97	
22年		960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72	
23年		1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70	
24年	第7期	1,080	376	35	1,620	931	57	2,700	1,307	48	
25年		768	624	81	1,152	898	78	1,920	1,522	79	
26年		672	285	42	1,008	940	93	1,680	1,225	73	
27年	第8期	320	438	137	480	686	143	800	1,124	141	
28年		320	450	141	480	395	82	800	845	106	
29年		290	241	83	430	240	56	720	481	67	
30年	第9期	320	325	102	480	287	60	800	612	77	
令和 元年		325	296	91	325	479	147	650	775	119	
2年		325	252	78	325	191	59	650	443	68	
3年	第10期	-	199	-	-	105	-	-	304	-	
4年		-	59	-	-	117	-	-	176	-	
5年		-	18	-	-	93	-	-	111	-	
6年	第10期	-	15	-	-	2	-	-	17	-	
7年		-	5.8	-	-	0.1	-	-	5.9	-	

※令和8年2月末時点の数値

# (2) 日本海北部5県における漁獲量

○令和7年(2025)1~12月の合計漁獲量<速報値>は、16.2トンで前年の40トンから24トン減少  
 ○秋田県だけが獲れていないわけではなく、全体で減少

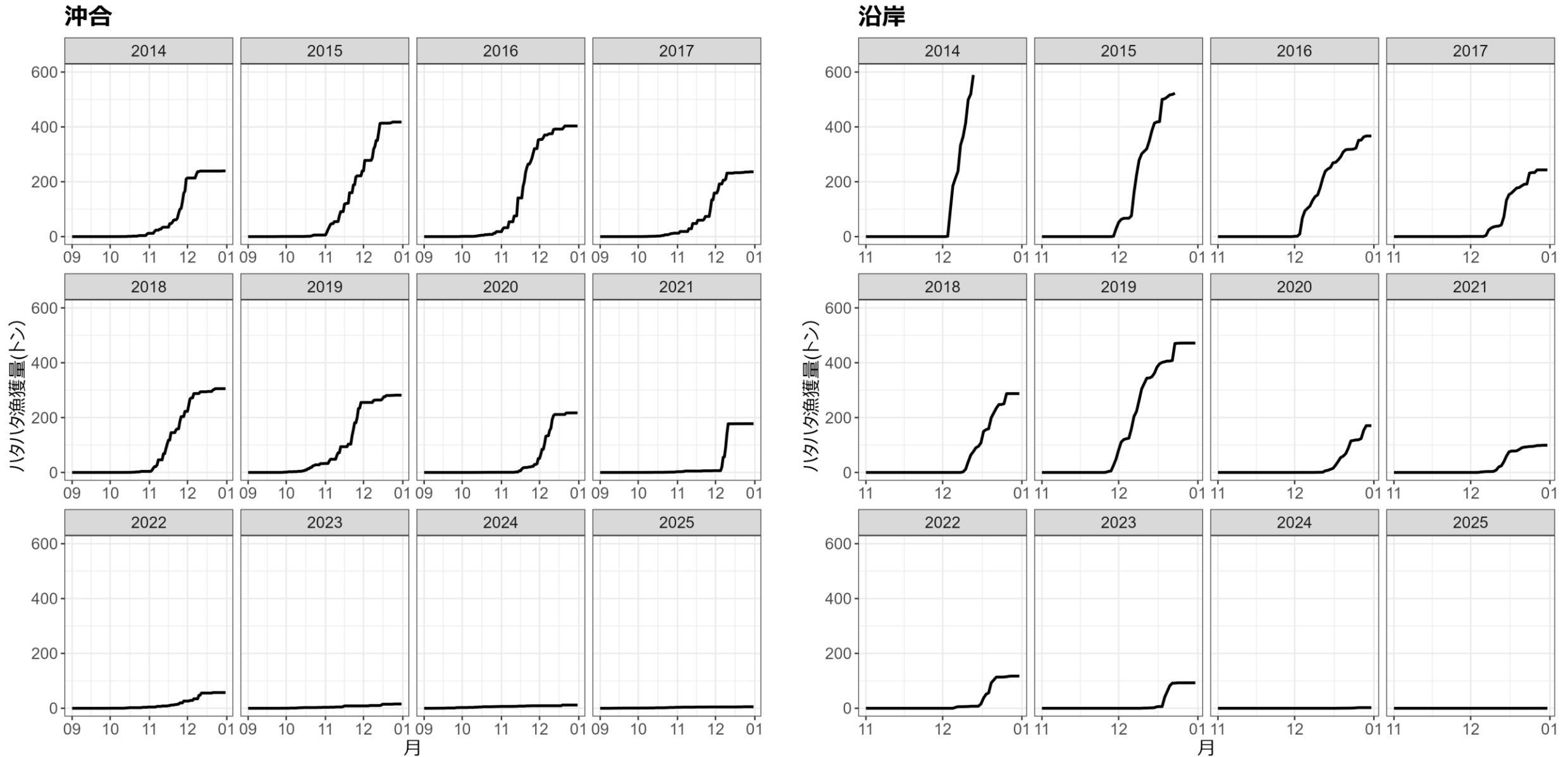


県別年間漁獲量	
青森県	1トン (16トン)
秋田県	8.7トン (17トン)
山形県	5.3トン (4トン)
新潟県	1.2トン (3トン)
富山県	0トン (0.3トン)

( )内は前年漁獲量  
 ※暦年の漁獲量

令和6年までは、農林水産統計の値  
 令和7年は、各県速報値

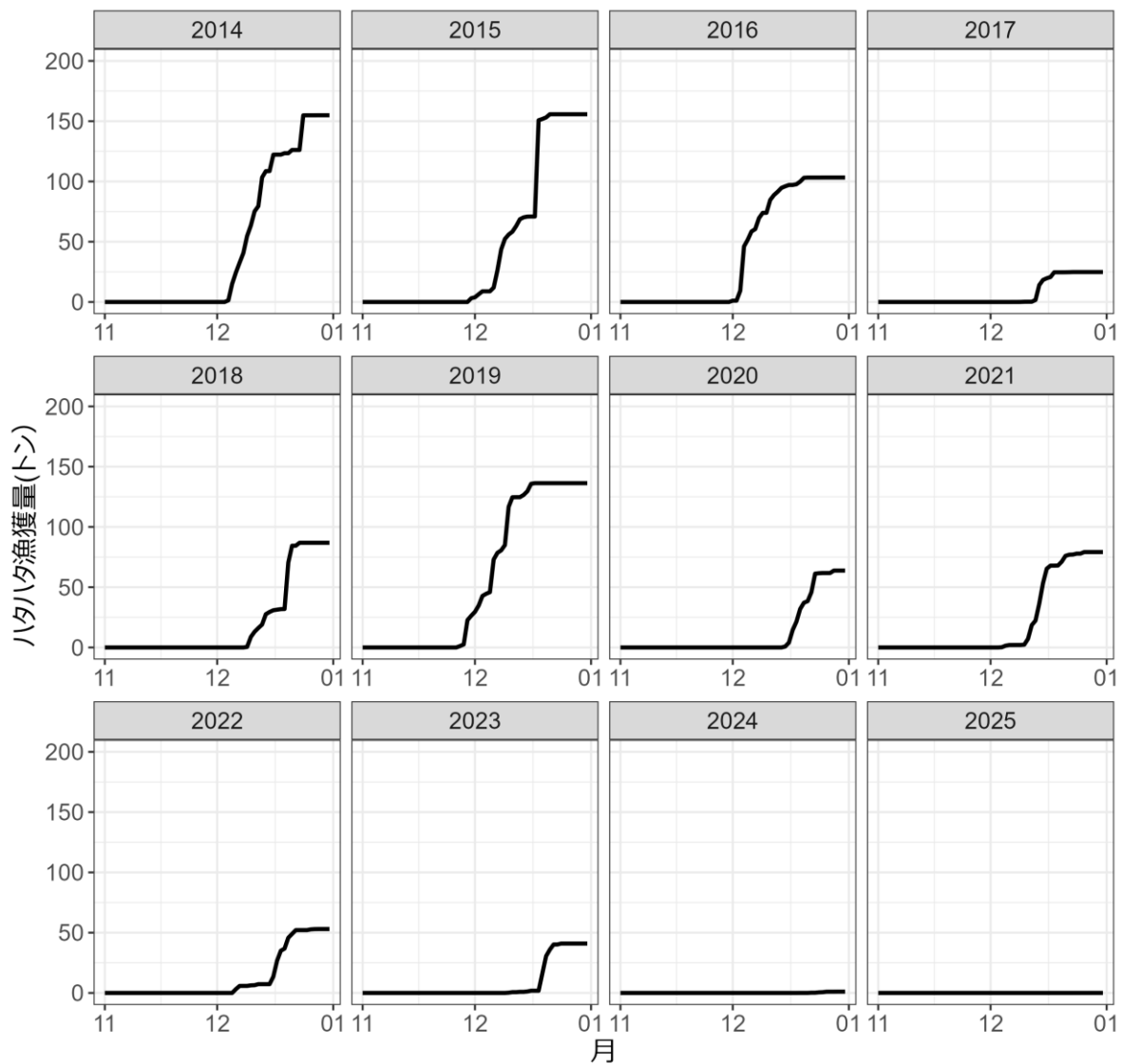
# (3) 漁期年別・日別累計漁獲量①沖合と沿岸



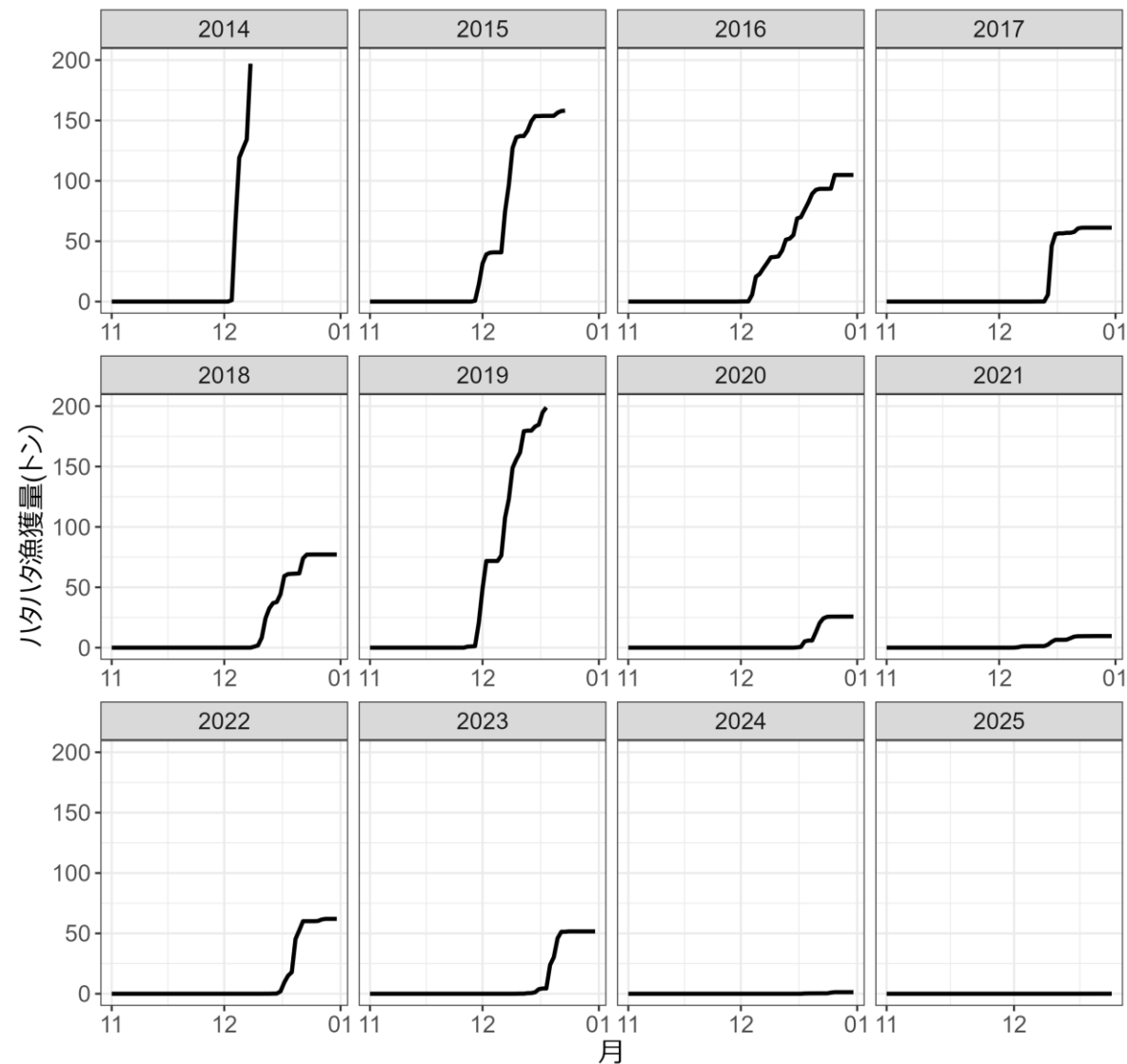
○沖合、沿岸ともに例年のような漁獲が集中する時期が見られていない

# (3) 漁期年別・日別累計漁獲量②沿岸北部

## 沿岸県北部（岩館—八竜）



## 沿岸男鹿北（若美—戸賀）

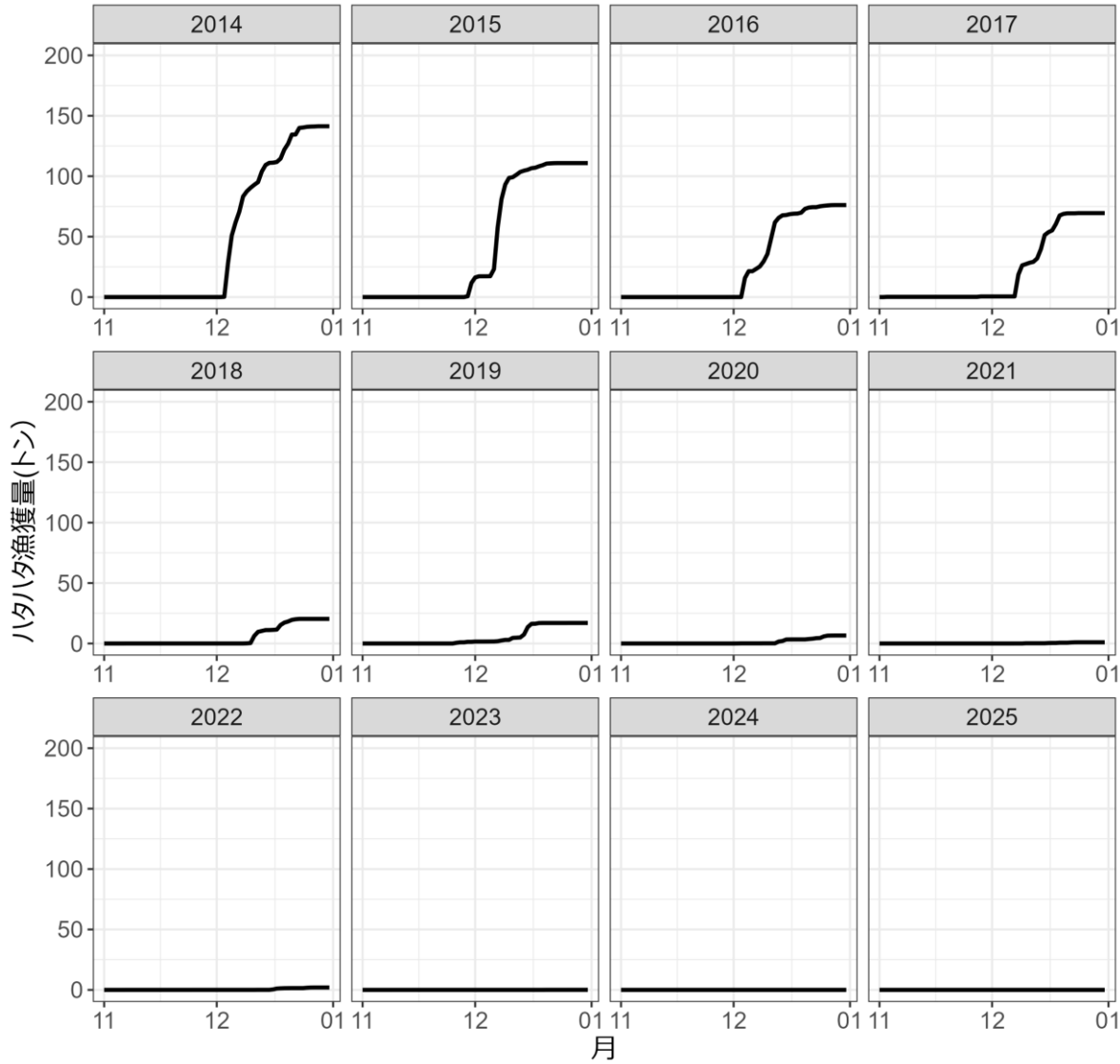


○沿岸での初水揚げ（季節ハタハタ初漁日）は、12月17日男鹿市北浦

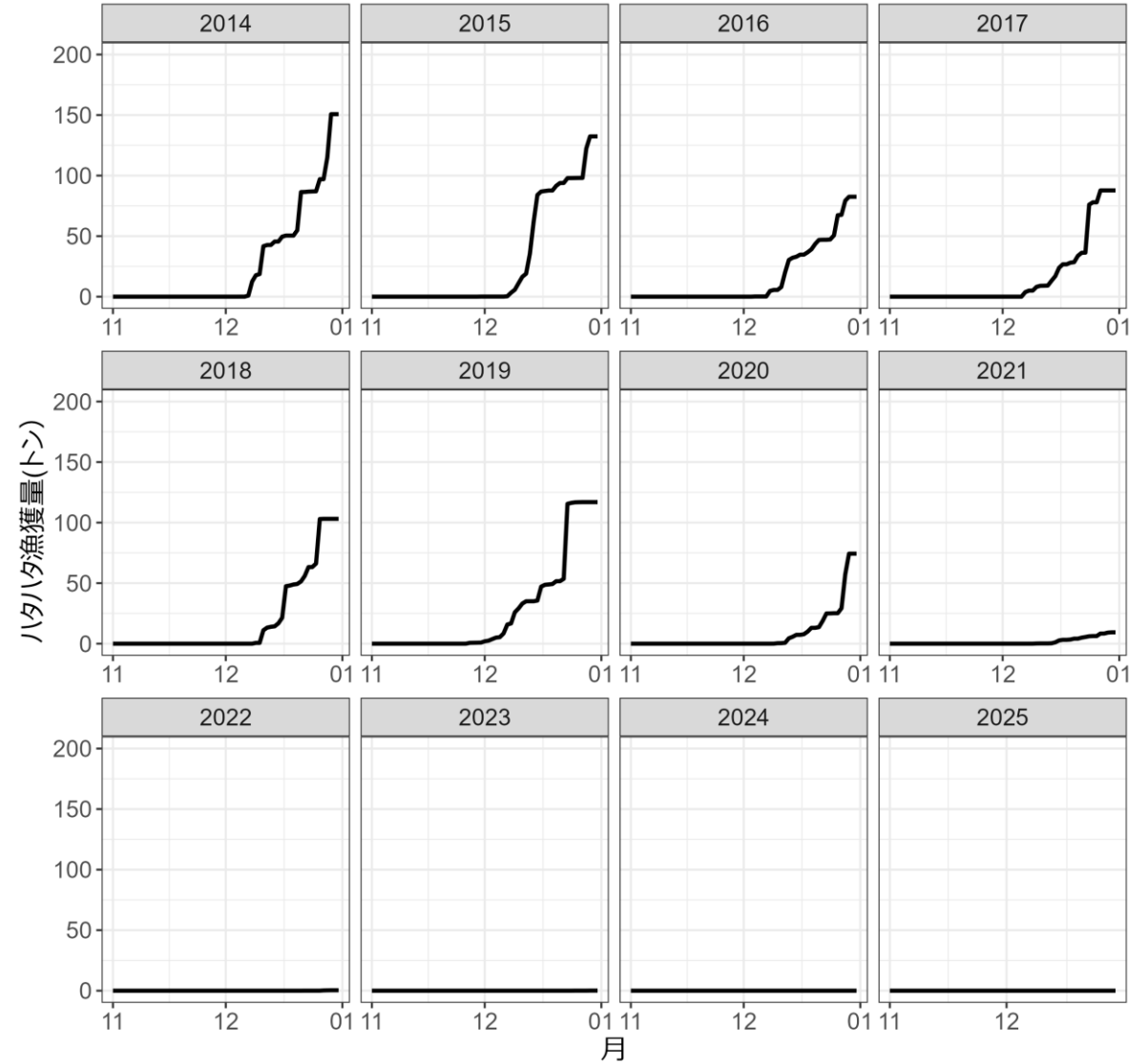
○例年のような漁獲が集中する時期が見られなかった。

# (3) 漁期年別・日別累計漁獲量③沿岸南部

## 沿岸男鹿南（椿－天王）



## 沿岸県南部（秋田－象潟）



○県南部においては過去4年間、まとまった漁獲がない。

# (4) 操業日数

○令和7年漁期に操業して水揚げ実績があったのは、岩館、八森、北浦、船川、平沢、象潟である。

○平沢、象潟については水揚げはあっても約3kg程度

○もっとも漁獲量があった北浦で53.0kgで、県内の沿岸で獲れた合計は118.2kgであった。

○沖合の漁獲量は約5.8トン（2月末時点）

○沿岸全地区と沖合で水揚げがほとんどない状況

漁法	地区	経営体数							経営体ごとの水揚げ日数						
		上限	実績	実績	実績	実績/上限	実績/上限	実績/上限	上限	実績	実績	実績	実績/上限	実績/上限	実績/上限
			2023	2024	2025	2023	2024	2025		2023	2024	2025	2023	2024	2025
刺し網	岩館	8	8	6	3	100%	75%	38%	12	5	4	3	42%	33%	25%
	八森	14	13	10	6	93%	71%	43%	12	8	4	2	67%	33%	17%
	道川	12	1	0	0	8%	0%	0%	15	1	0	0	7%	0%	0%
	西目	10	3	0	0	30%	0%	0%	15	3	0	0	20%	0%	0%
定置網	岩館	4	3	1	0	75%	25%	0%	12	7	3	0	58%	25%	0%
	八森	5	3	0	0	60%	0%	0%	12	3	0	0	25%	0%	0%
	能代	1	1	0	0	100%	0%	0%	12	4	0	0	33%	0%	0%
	若美	2	1	0	0	50%	0%	0%	12	2	0	0	17%	0%	0%
	五里合	6	1	0	0	17%	0%	0%	12	4	0	0	33%	0%	0%
	北浦	8	6	7	1	75%	88%	13%	15	9	2	5	60%	13%	33%
	船川	30	5	1	0	17%	3%	0%	15	2	1	0	13%	7%	0%
	脇本	6	0	0	0	0%	0%	0%	12	0	0	0	0%	0%	0%
	天王	5	0	0	0	0%	0%	0%	12	0	0	0	0%	0%	0%
	道川	1	0	0	0	0%	0%	0%	17	0	0	0	0%	0%	0%
	平沢	1	0	1	1	0%	100%	100%	15	0	1	2	0%	7%	13%
	金浦	1	0	0	0	0%	0%	0%	17	0	0	0	0%	0%	0%
象潟	2	0	1	1	0%	50%	50%	15	0	1	1	0%	7%	7%	
底びき網	全県	17	17	17	17	100%	100%	100%	22	3	3	1	14%	14%	5%

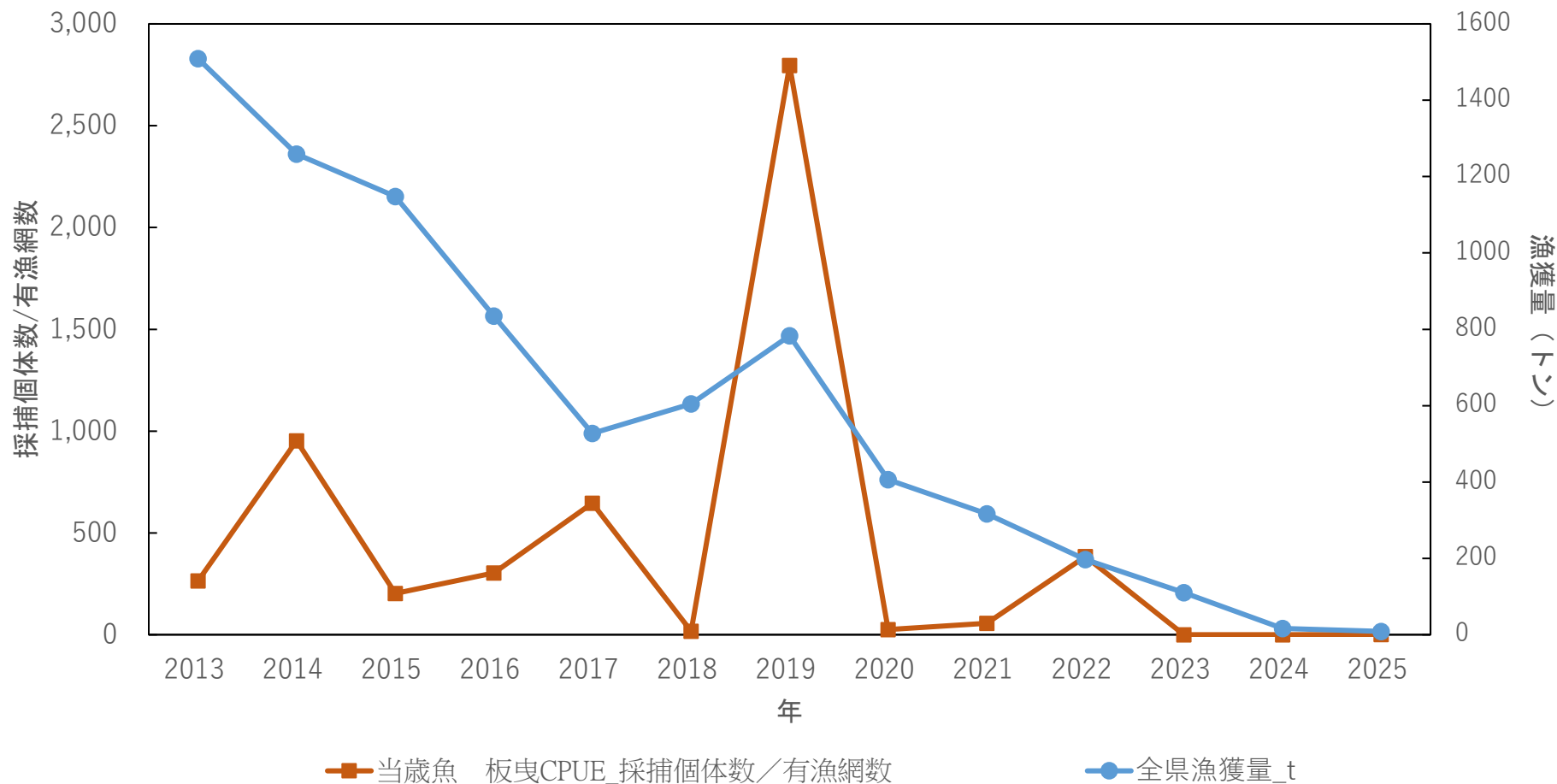
・底びき網の経営体ごとの水揚げ日数は、90kg以上を1日とカウント。

・底びき網の経営体数上限は2024年漁期から17とした。以前は18のため2022年は100%を超えている。

## 2. 調査結果

### (1) 仔稚魚 (0歳)

サンプル採取  
千秋丸板びき網  
当歳魚 (0歳魚) の漁獲調査



- 2024年の調査では、2023年に引き続き仔稚魚 (0歳魚) の採捕はなし。
- 2025年の調査では、5月13日に船川沖で1尾のみ仔稚魚 (0歳魚) を採捕した。
- 2026年は調査中だが、今のところ採捕実績なし。

# (2) 漁獲物の体長組成

○サンプル採取

9~12月

千秋丸（男鹿ー由利本荘市沖）

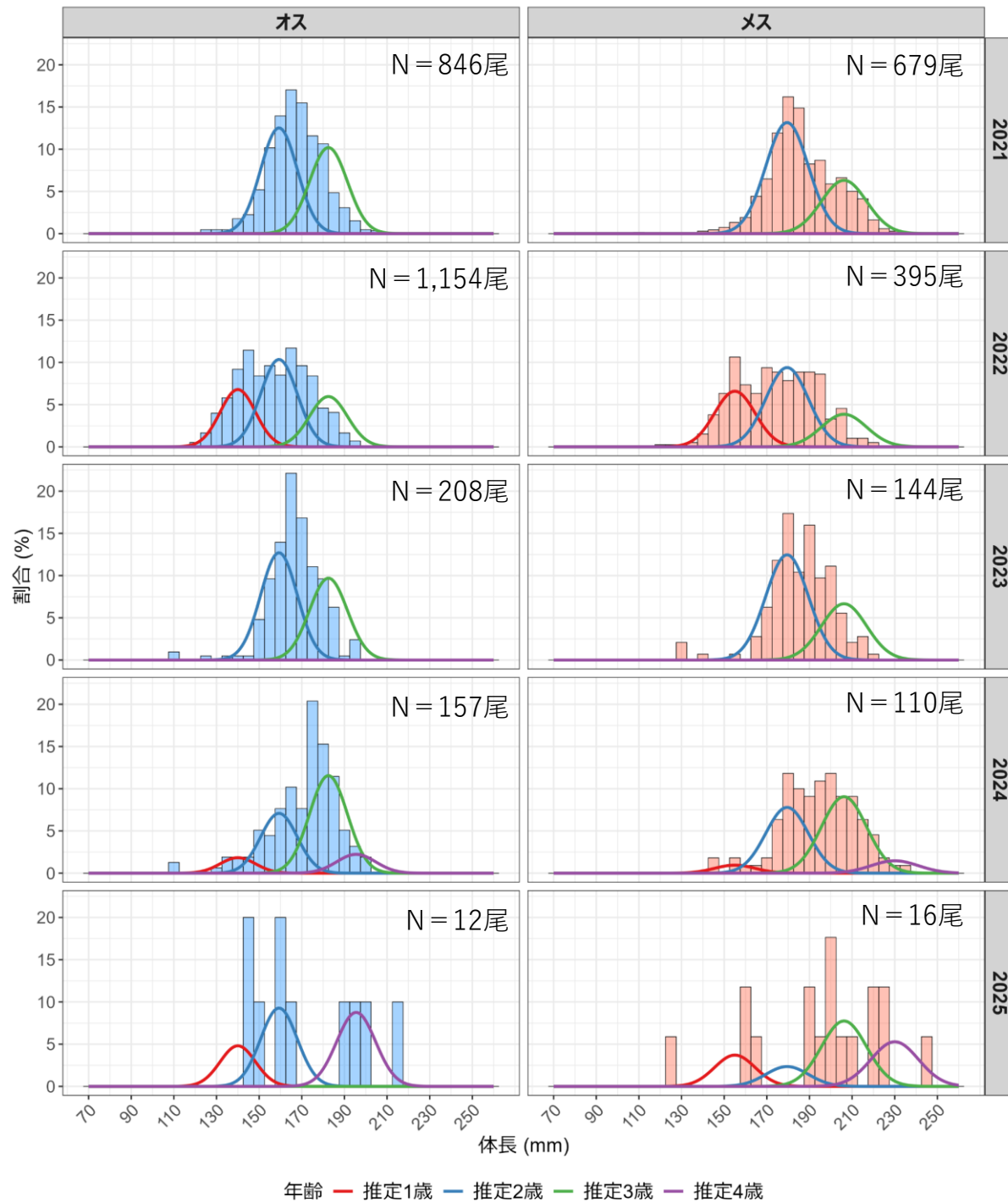
かけ廻し

○今期はサンプル数が少なく構成比も明瞭に出せていない。

○今期は、サンプル数は少ないものの小型の個体も入っていた。

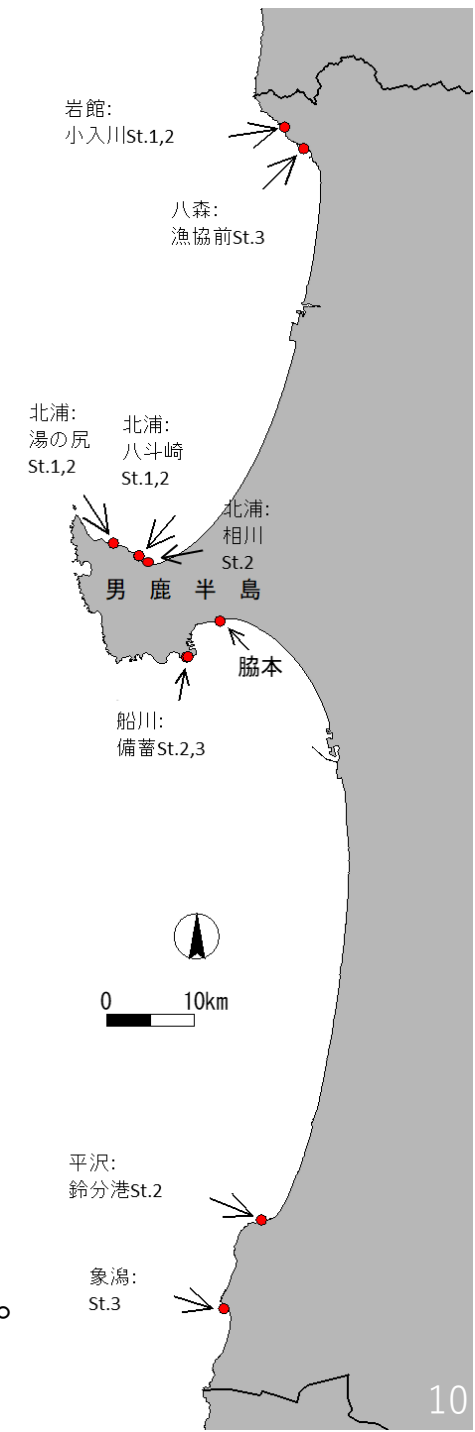
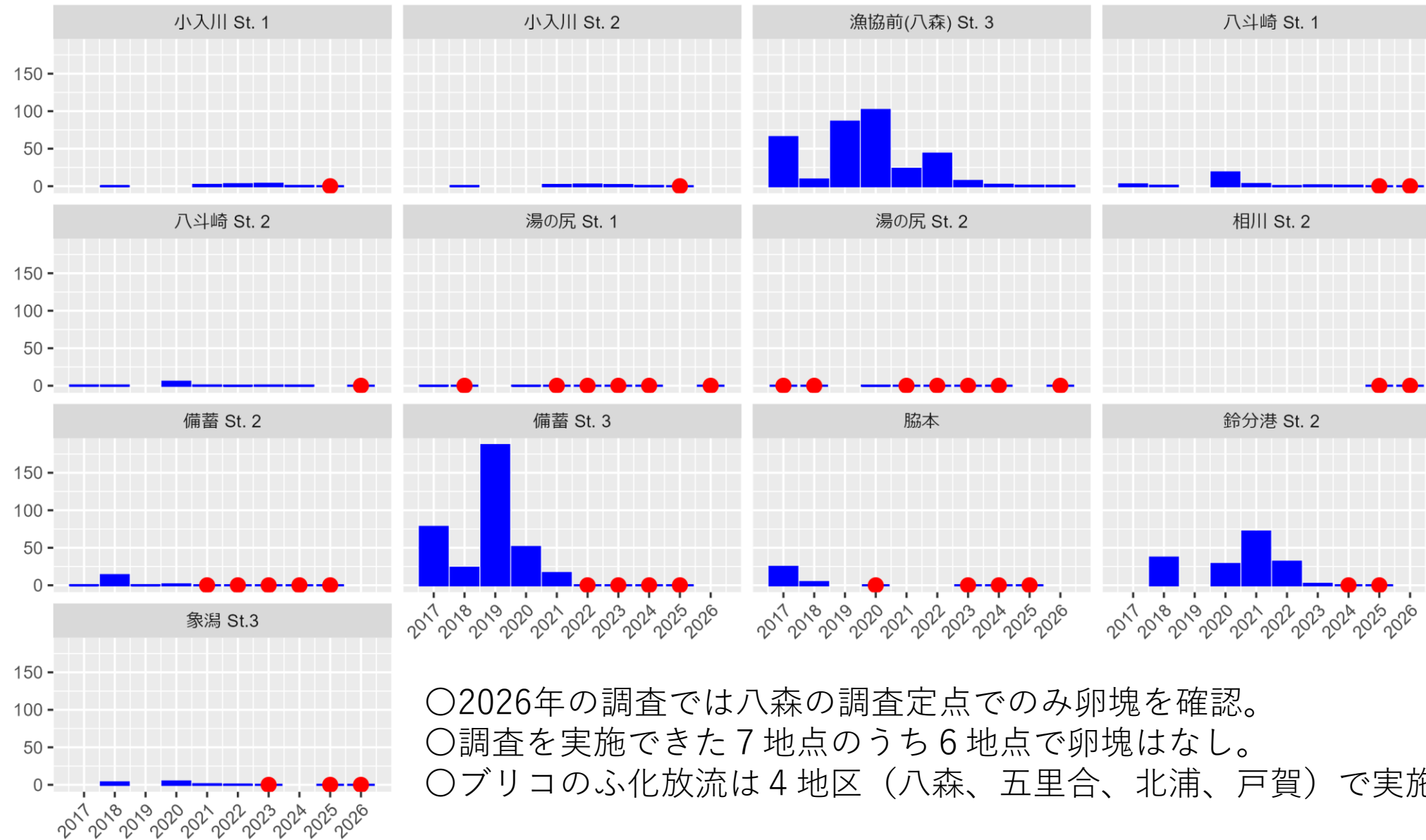
【参考】9~12月頃の年齢ごとの体長の目安 (cm)

	1歳	2歳	3歳	4歳
オス	14.0	16.0	18.0	20.0
メス	15.5	18.0	20.5	23.0



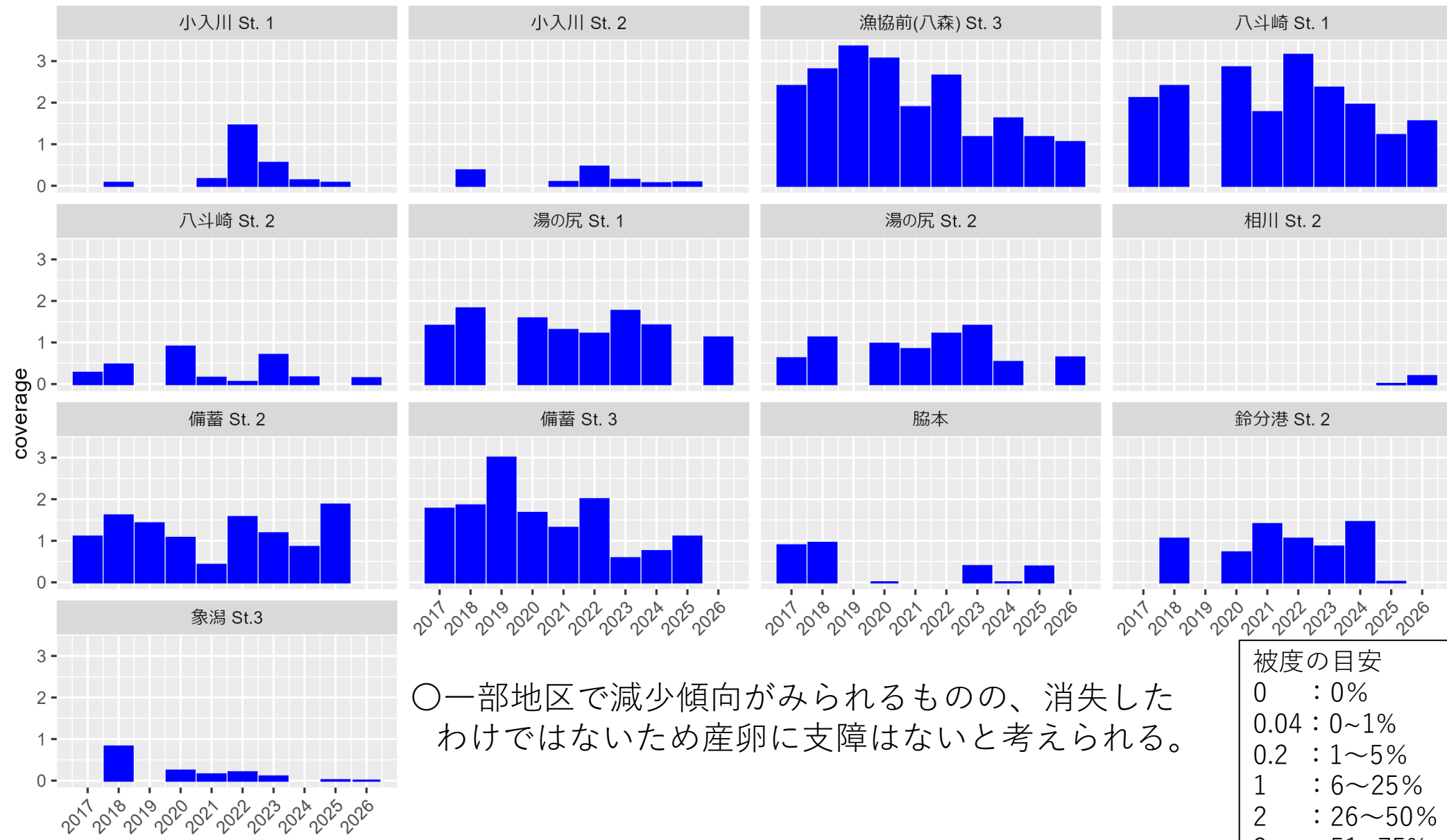
# (3) 産卵状況① (卵塊密度) ※空白は荒天のため欠測、赤●は0

個/m<sup>2</sup>



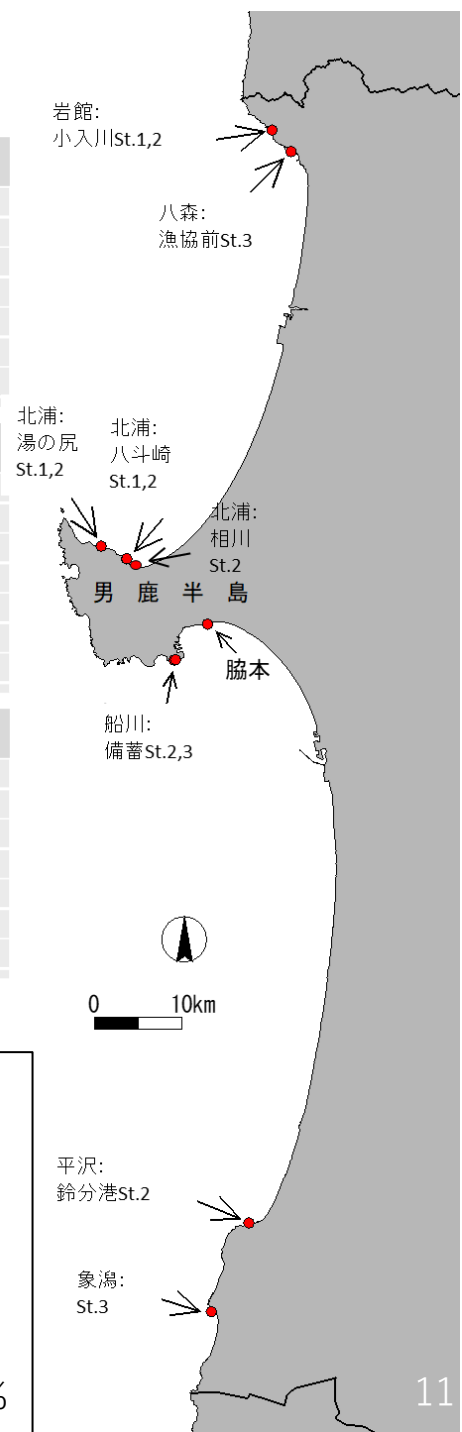
○2026年の調査では八森の調査定点でのみ卵塊を確認。  
 ○調査を実施できた7地点のうち6地点で卵塊はなし。  
 ○ブリコのふ化放流は4地区（八森、五里合、北浦、戸賀）で実施。

# (3) 産卵状況② (ホンダワラ類被度) ※空白は荒天のため欠測



○一部地区で減少傾向がみられるものの、消失したわけではないため産卵に支障はないと考えられる。

0	: 0%
0.04	: 0~1%
0.2	: 1~5%
1	: 6~25%
2	: 26~50%
3	: 51~75%
4	: 76~100%



# (4) 深場での産卵状況調査 1

設置日：令和7年12月3日（水）

場所：八森沖水深120～240m

内容：テリ刺し網の古網を設置

投入開始地点：北緯40° 20'18.02"、東経139° 37'52.51"（沖側）

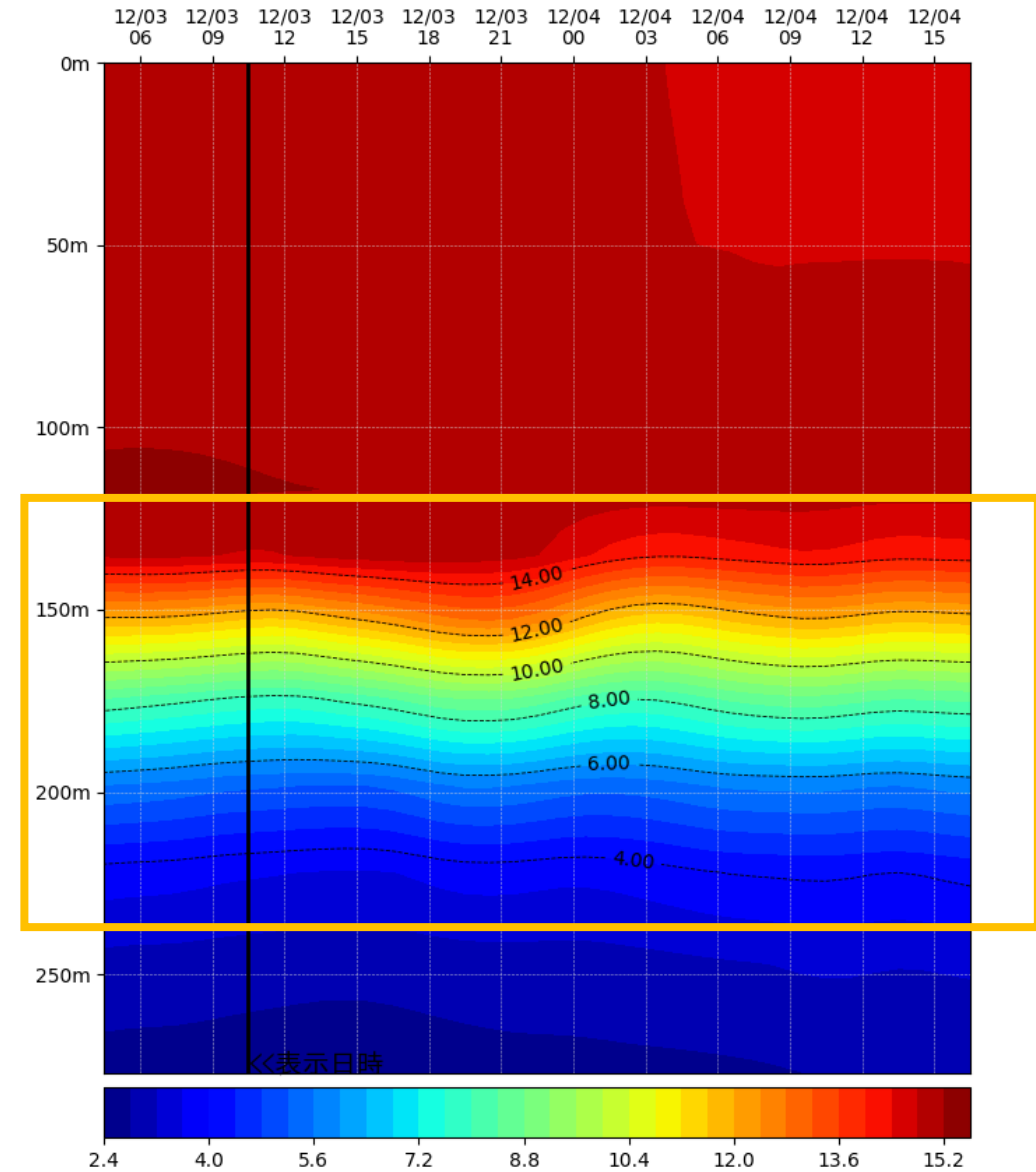
投入終了地点：北緯40° 20'12.23"、東経139° 38'21.51"（岸側）

地点間の距離：約700メートル

回収日：令和8年2月5日（木）

- ・設置時に水温ロガーを網の両端に取り付けた。

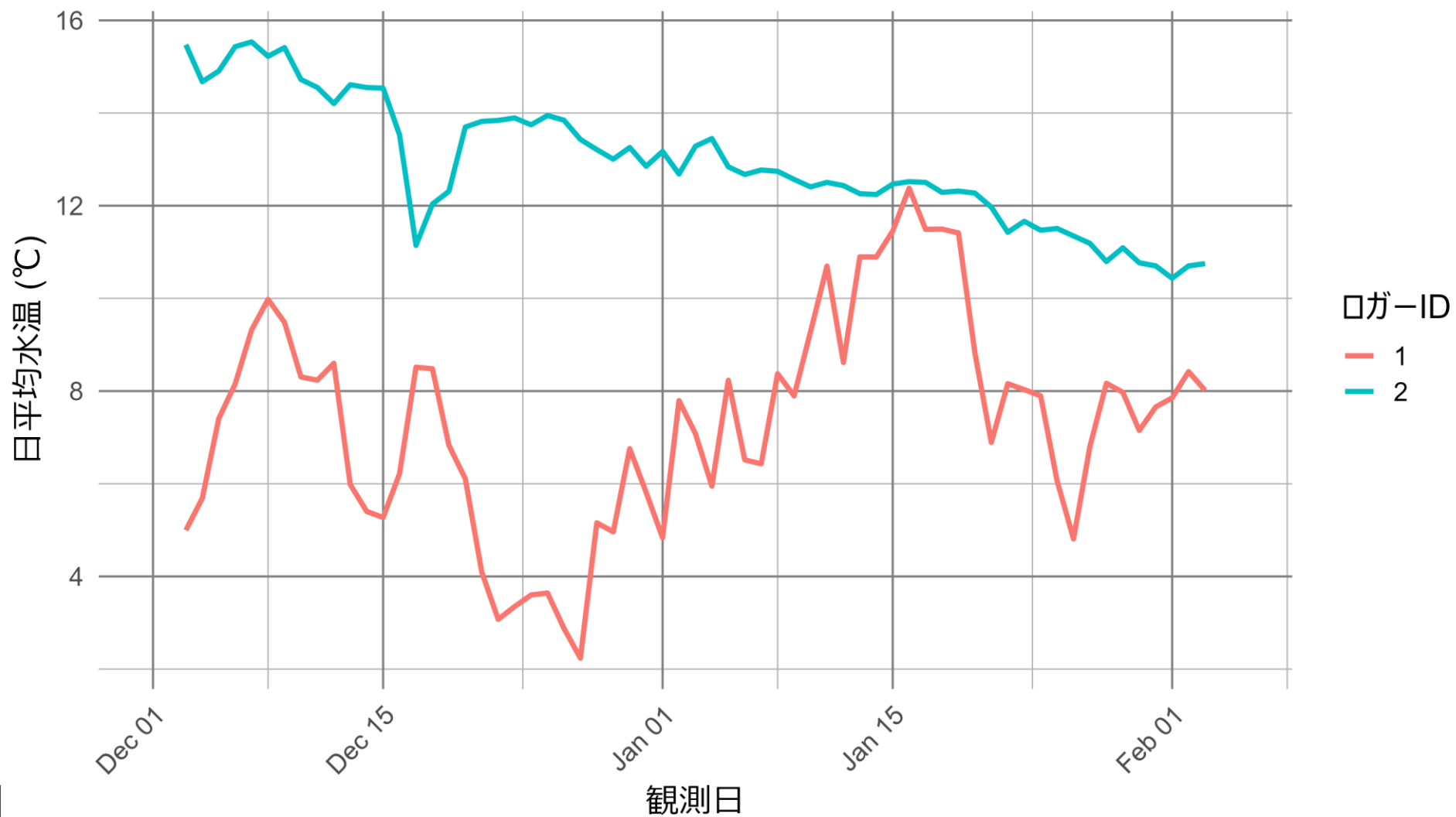
※国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所との  
共同で調査



予潮アプリによる網投入時の鉛直水温  
(40° 20.2'N、139° 37.9'E)

# (4) 深場での産卵状況調査 2

## ロガー1および2の日平均水温 (2025年12月3日~2026年2月4日)



### 【結果】

○ハタハタの卵の付着はなし。

○高い方 (ロガー2) では、12月中に局所的に低い時はあるが、1月1日でも13°C以上であった。

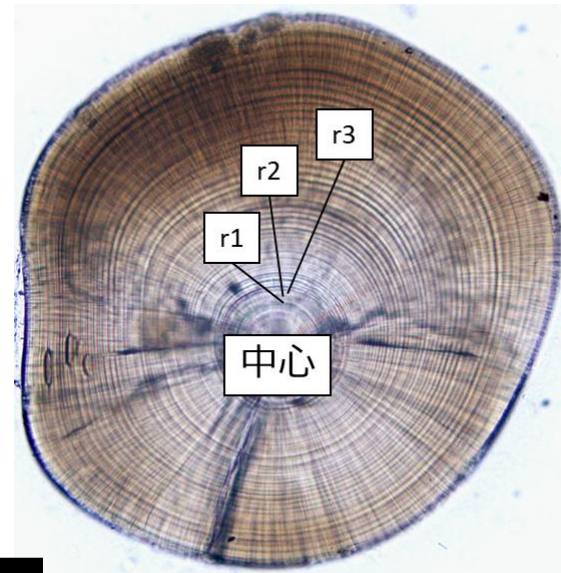
○低い方 (ロガー1) であっても3°C~12°Cで変化。

# (5) ハタハタ耳石の解析 1

採取時期：2011～2022年

採取場所：秋田県沖

採取方法：千秋丸の板びき網調査で捕獲した稚魚 (N=643)



- ・ 耳石の日周輪の幅は成長速度に比例すると考える
- ・ 10日と30日齢までの瞬間成長率 (SGR)を計算
- ・ 影響する要因を生息水温とその他の環境要因とし、水温の影響を解析

※水産研究・教育機構水産資源研究所との共同研として実施。本成果は令和8年度日本水産学会春季大会で口頭発表 (演者：水研機構 飯田真也 グループ長)

## 2011～2022年 秋田沖 採集

採取日	調査地域	水深(m)	体長 mm	輪紋数	R (μm)	r 1	r 2	r 3
2011/4/6	北浦	40	29.79	73	479.70	9.37	4.00	3.88
2011/4/6	北浦	40	22.99	73	417.99	8.04	2.72	2.30
2011/4/6	北浦	40	19.09	63	312.57	8.08	2.05	2.63
2011/4/6	北浦	40	18.88	64	325.58	8.23	3.98	5.69
2011/4/6	北浦	40	22.3	71	377.76	8.34	3.52	4.66
2011/4/6	北浦	40	20.18	68	337.31	7.94	2.78	3.05
2011/4/6	北浦	40	18.83	63	253.93	9.23	3.20	3.34
2011/4/6	北浦	40	20.47	67	339.16	6.60	3.00	2.80
2011/4/6	北浦	40	20.56	63	352.49	8.50	3.55	3.34
2011/4/6	北浦	40	18.82	61	307.49	9.87	4.74	5.19
2011/4/12	船川	50	23.81	89	449.81	7.91	2.77	3.37

体長

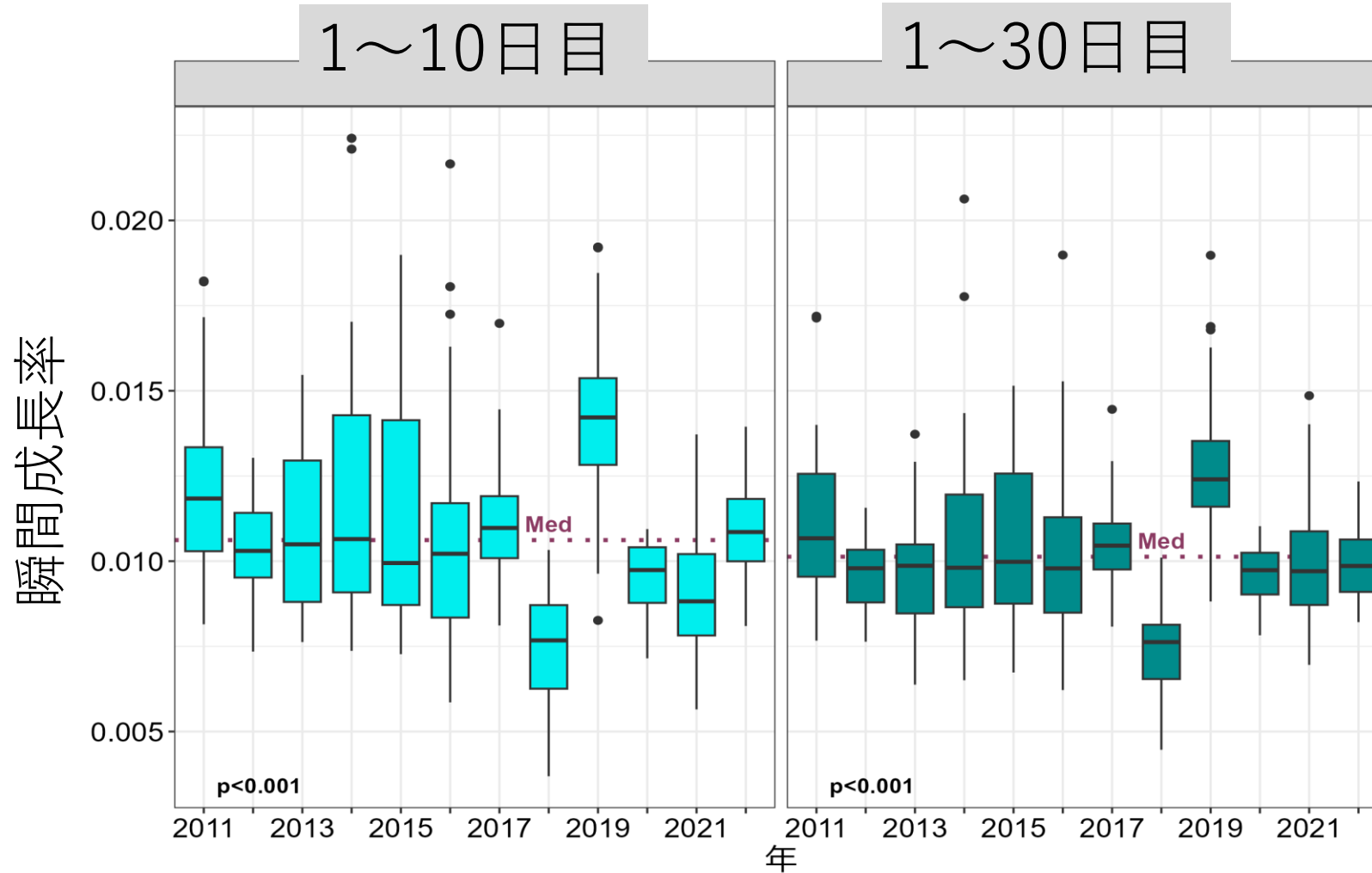
中心

各日輪間距離

～縁辺距離

# (5) ハタハタ耳石の解析 2

## 瞬間成長率の年間比較

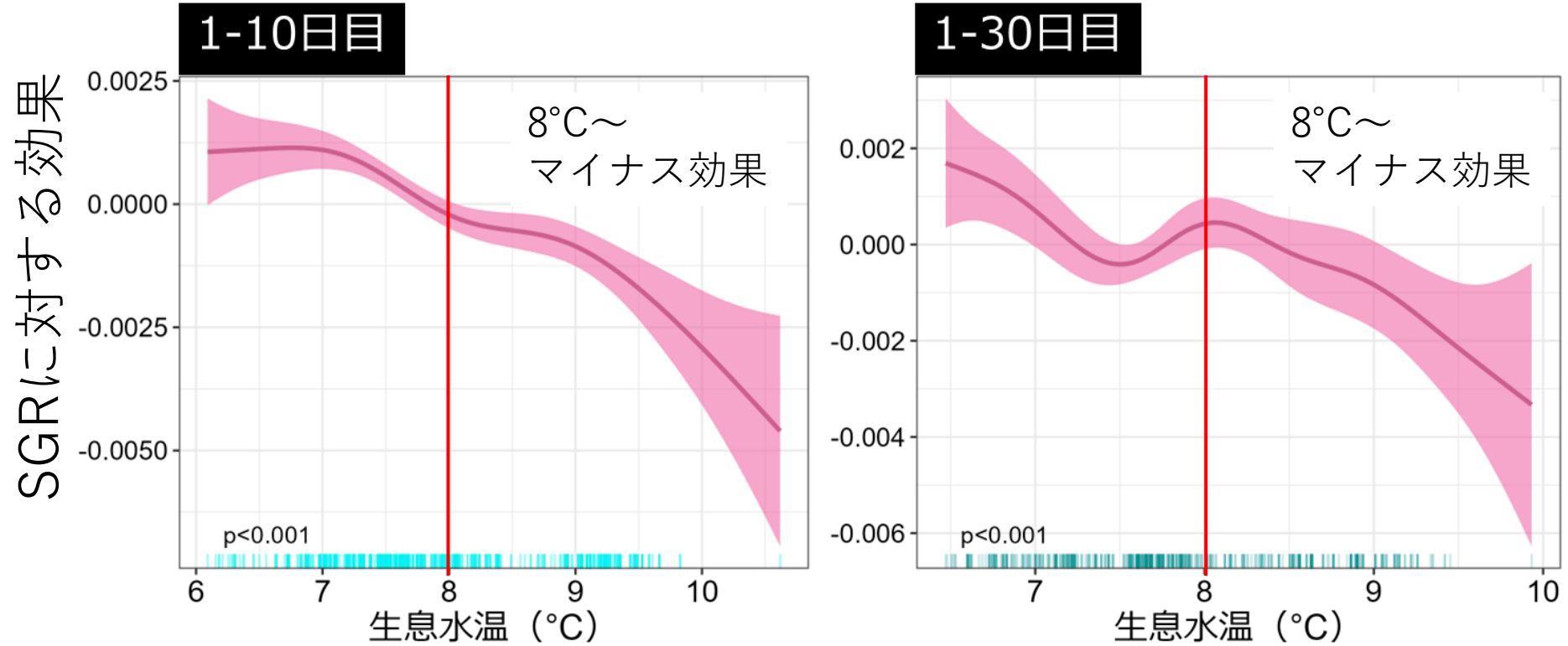


○日齢 1-10日目、1-30日目とも年間で有意差あり ( $P<0.001$ )

○2020年以降、瞬間成長率は低水準

# (5) ハタハタ耳石の解析 3

## 生息水温と瞬間成長率の関係

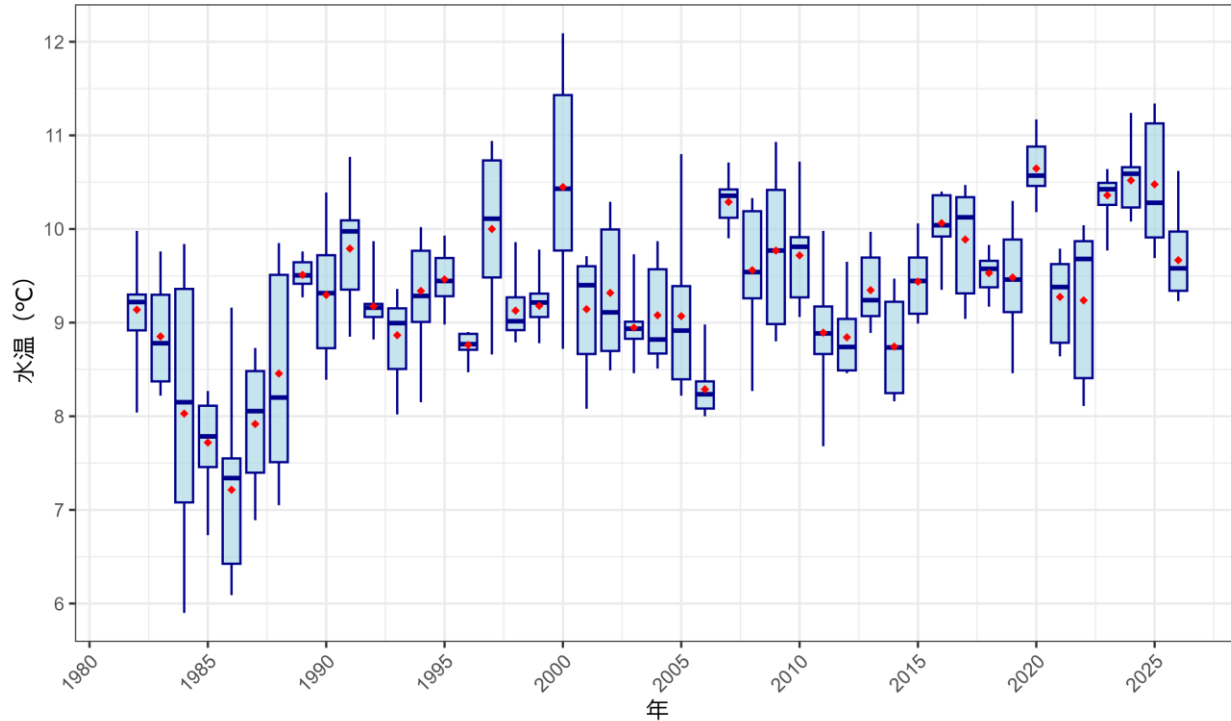


○生息水温の効果は有意 ( $p < 0.001$ )

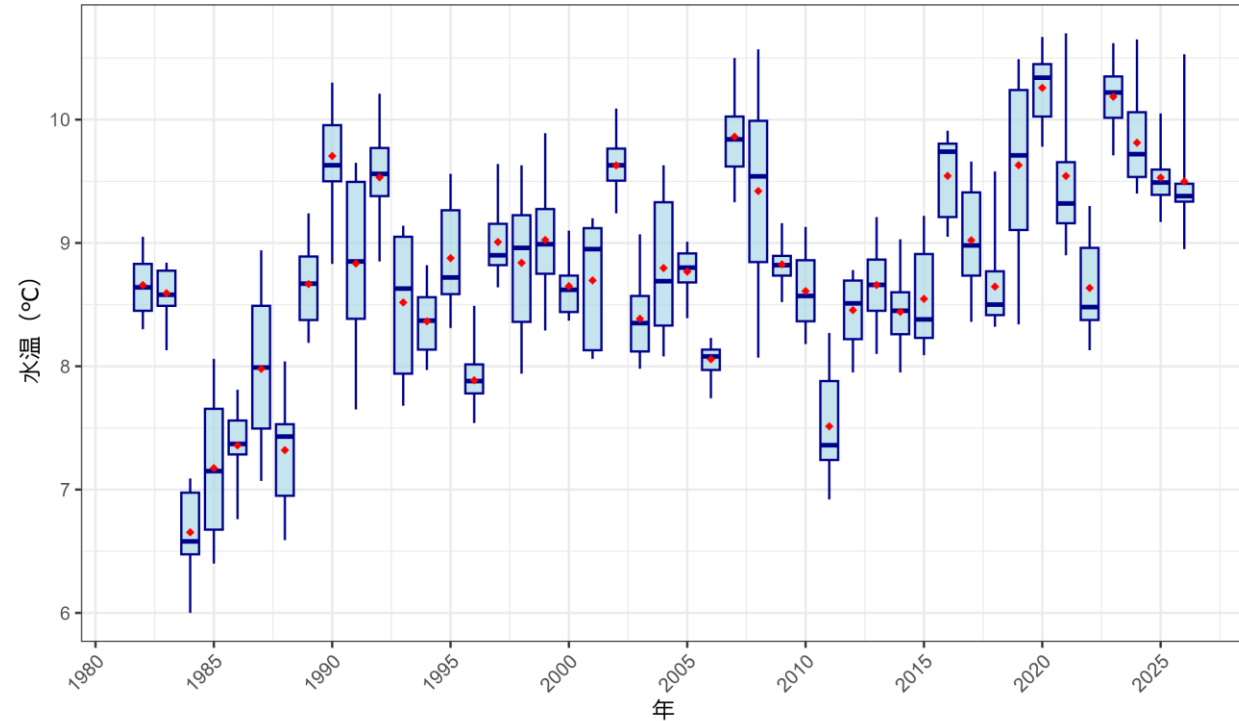
○特に瞬間成長率 (SGR) は8°Cを超えると顕著な低下を示した

# (6) 秋田沿岸の水温

秋田沖表層水温の年別推移 (2月 / ひげ : 最大・最小、赤点 : 平均)



秋田沖表層水温の年別推移 (3月 / ひげ : 最大・最小、赤点 : 平均)



## 【グラフに使ったデータ】

データ：気象庁ホームページより  
場所：秋田県沿岸

## 【傾向】

- 2月、3月ともに上昇傾向
- 2026年は少し平均は下がっているが温度の高い時もある
- エリアデータのため岸付近では天気も影響してくる

### 3. 今後の予定

#### (1) 調査について

現在の調査内容

##### ○仔稚魚調査

→板びき網による調査（2～6月）

→【追加】稚仔魚の生育への水温の影響をしらべるため、サンプルが獲れたら水研で耳石解析

##### ○資源評価

→かけ廻しによる漁獲物を使った体長、重量等の調査（9～12月）

##### ○卵塊・藻場調査

→産卵量と産卵環境を確認（1～2月）

→【追加】産卵環境の変化を調べるため、深場での産卵状況調査

→【追加】産卵場所を広域に調べるため、水中ドローンを使った定点以外の産卵状況調査

### 3. 今後の予定

#### (2) 今後の資源の見通し

##### ○資源水準は低い

- 資源量は少なく、近年の傾向から今後も1歳魚の加入は少ないと考えられる。
  - 初期の資源が少なければ、増えるタイミングが来ても急激な増加が見込めない。
- 
- ・海水温は長期的に上昇傾向にあるが、年ごとに上下するため、ハタハタが増えやすい環境になるまで資源を維持することが必要。
  - ・今期の実績から考えると操業しても収益はほぼ期待できないことから、コストパフォーマンスの面からも操業の実施について検討が必要。
  - ・ハタハタ以外の収入源を検討していくことが必要。